



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

『人を山に呼び戻す道』

測量といえば「伊能忠敬」を連想される方も多いと思いますが、この偉人は今から約二百年前の西暦千八百年、五十五歳で半年かけた東北、北海道の測量を皮切りに、その後の十数年で日本全国を



ウーン!! なんだか変な格好だ

測量し、二百種を超える有名な伊能図を世に出しています。その伊能忠敬の頃とあまり変わらない道具、コンパスとメートル縄(当時は羅針盤と間縄)で測量をしてみまし



赤ではなくて黒い針を読む

た。島崎先生がよく言われる「山は『おおよそ』でいいんだ」というのは測量にはあてはまりにくく、一周測ってみて、まったく閉じる気配がなかったらやはりやり直しは免れません。一回測りなおしをした班もありましたが、最後は何とかが三分の一以内の誤差におさまったようです。

法務局(登記所)にある公図は山林の場合、一般的には少なめに登記されている場合が多いものです。山林をお持ちの皆様、一度ご自分の山を測って見ませんか。広さが三倍くらいになるかもしれませんですよ。

道がで きると山 に入りやすくなり、山が身近になってく るはずで す。かつて 森林塾で 造った伊 那市の野 底区有林 の歩道は 区民ハイ キングな どに利用 さ

そして翌日は林道設計。パラグライダー練習場のテイクオフ地点から東向きに斜面。お寺さんの所有地なのですが、まばらにカラマツの生えた、斜度三十度ほどの傾斜地を測量し、午後はそれを歩道にしてみました。総延長は二百五十メートル近くに なった模様で、杉村さんが「道がこんなにありがたいものだとは思わなかったよ」とおっしゃっていたとおり、帰りはその造った道をみんなが楽しく歩いて戻ってきたのでした。

れていると言う話を川島さんから聞きました。一本の道が、区民の皆さんを山に呼ぶ、これこそ道の道たる所以です。

通年コース第13、14回 10月16、17日(土、日) 測量、林道設計

- 16日(土) 8時30分 島崎先生の山小屋に集合。日程説明と班分け。先生による、測量についての説明
- 9時30分 三班に分かれ小屋裏で測量開始。今回はあらかじめ十六本の杭を打っておきました。同じところを反時計回りに一班は一番から、二班は六番から三班は十一番から測ってもらいました。傾斜地でいかに上手に三脚を立てるかが早く測るコツで、等高線上に二本刺し、残りの一本を山側で回転させて調整すると割りりに楽にレベルがとれます
- 11時30分 早く終わった後藤班はデータ整理にはいる
- 12時 昼食。塾で打ったナメコとヒラタケのほだ木からきのこが顔を出していた。島崎先生がそれで味噌汁を作ってくれました。ごちそう様でした

1時 データを整理し製図開始。鉛筆はできるだけ細く削って。三班図形が閉じず、二度にわたって再測。磁針をフリーにしたかったのか、目盛りの読み違いか。誤差修正と三角形に分けて面積計算



測量三態。みんな真剣



5人並んで歩道作り



もう10センチ上と言われても

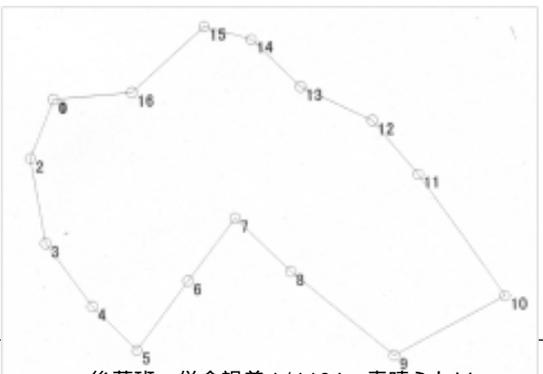


斜面での水平、垂直が割と難しい

移動式簡易炭化炉とドラムカンとで炭焼きに挑戦。火をつけた後は伐倒などの復習。そして夕方からはちょっと早いけど忘年会、どなたか是非幹事さん。翌日は炭出しをした後、伐倒チーム、保科山林見学チーム、他に分かれて。先生方の担当は初日です。

4/30 長野県のがん研修制度者への里親研修制度

3時 等高線の入れ方の説明
4時 面積計算と等高線、できれば家で計算してください。解散。後藤班の



データを借りてパソコンで面積計算したら12460㎡、併合誤差1/124でした。素晴らしい!!川島班は12459㎡、1/205これもまあまあ。早川班は内緒

声に期待がかかる。やはり山には餌

1時30分 お弁当終わって山頂下の車止めの戻ると蕎麦チームがいた。付近が大渋滞で蕎麦にありつ

参加者/江上さん、角田さん、梶永さん、小名川さん、佐々木さん、笹原さん、神保さん、杉村さん、田中さん、服部さん、平さん、堀さん、増井さん、湯沢さん、大河内さん、園田さん、長坂さん

11時30分 川島班データ探り早く、製図にかかっている
12時 他の班も終わり、鳩吹山頂上へ向かいそこでお弁当ときのご捜し。小黒川キャンプ場で今日は「行者そば祭り」。田中さんチームは蕎麦目当てにそちらへ向かう
鳩吹山頂からは伊那市街地が一望

2時 現場に戻り、製図を終わらせ、測ったところを歩道にする作業開始
3時30分 各班70〜80mの歩道を完成させた。総延長は二百五十m近い。先生のあいさつ、解散

炭焼きと復習
11月27・28日(土、日)
通年コース第15・16回

次回以降の予定
集中コース秋の部
10月29日(金)〜31日(日)
KOA森林塾のエキスを詰めた三日間です。森林調査(測樹)から伐倒、集材まで一通りやって見ましよう。おまけはぶり縄での木登り。
七人の方の参加です。天気がよければいいのですが。初日が先生方の担当です



草の上で図面書き。平面、縦断、横断面

リレー通信
希望退社発、森林塾経由、有機農業研修中
中村 岳史

4/6〜4/9 日本農業実践学園で野菜コースを短期体験。朝礼では国旗掲揚と君が代斉唱。食事がおいしい。夜は体育館でサッカー。海外青年協力隊の説明に参加。
4/24 林野庁主催の林業見学。山梨県北都留森林組合作業員指導下で手ノコを用いた間伐を体験。
4/30 長野県のがん研修制度者への里親研修制度

H16年3/31 農林業に夢を抱き、三十六歳で環境コンサルタントを希望退社。
4/1 全国新規就農相談センターにて相談員と面談。有機農業、循環農法に興味があることを伝えたところ、「有機は難しすぎる。露地野菜の農業生産法人に就職せよ。」と言われた。





の説明を受けた。
 5 / 18 ~ 5 / 21 飯田市実
 施のワーキングホリデー
 を活用し川手洋造さんと
 で農業(果樹と平飼養鶏)
 体験。
 5 / 22 ~ 23 群馬県で林業
 (植樹)体験。指導の林業
 家・小森谷さん曰く、「森
 林づくりに真剣に取組ん
 でいる森林組合は全体の
 2%。単なる作業人夫に
 なるのが嫌ならば、K O
 A森林塾で二年間勉強し
 たなら山造りに真剣な就
 業先を紹介してもいい。」
 と言われた。K O A森林
 塾通年コースを受講しよ
 うと考えたが、無職ゆえ
 の不安からまずは夏期集
 中コースへの参加を決め
 た。

6 / 5 新農業人フェア(農
 業生産法人の合同説明会)
 に参加。「会社組織でやる
 農業ってつまらなそう
 …。」と感じた。
 6 / 6 ~ 6 / 11 6 / 12 に
 開催の和歌山県森林組合
 合同説明会参加のついで
 に那智勝浦町で農業体験。
 この頃は「林業を仕事に
 しよう」と考えていたが、
 知人の「もう少し農業体験
 が必要では？」との助言に
 従った。そこは色川郷と
 いう多数のイターン者が
 有機農業をして暮らして
 いる、鹿・猪・猿が頻繁に
 出没する山間地の村落
 だった。有機農家を見た
 のは初めてだった。六日
 間で十軒の農家の手伝い
 を体験した。「難しい有機
 農業を実践している人が
 大勢いることに驚きを覚
 えた。彼らは皆、独特のお
 だやかな雰囲気を持って
 いた。大部分の家庭では
 生活に薪炭

を取り入れ
 ていた。彼
 らのように
 になりたいと
 感じた。有
 機農業をし
 ながら堆
 肥、薪炭、
 その他農業
 資材の入手
 先として森

林と関わりたいと思った。
 6 / 12 和歌山県森林組合
 合同説明会。山間地での
 有機農業と言う考え方が
 頭の中を支配し、面接に
 身が入らず。後日、不採用
 通知が届く。
 6 / 23 ~ 7 / 3 前日の千
 代在住、川手さんより援
 農の依頼。「ワーキングホ
 リデーで知り合った人に
 援農を頼むのは初めて
 といわれ、少し嬉しかつ
 た。山間地で自給的有機
 農業を営む小椋啓司さん
 を紹介された。
 7 / 4 ~ 7 / 10 阿南町和
 合の小椋さん宅に逗留。
 穀物、野菜、卵、みそ、しよ
 う油、酒から家までたく
 さん手作り。
 7 / 11 群馬県にて川修羅
 見学会に参加。
 7 / 13 ~ 14 奥多摩体験の
 森で原島幹典さんの林業
 教室に参加。カマの刃砥
 ぎ、下刈、ハチ・毒蛇対策
 混交林造りの講義と実習。
 7 / 30 ~ 8 / 1 K O A 森
 林塾集中講座を受講。予
 想以上の実践性、レベル
 の高さを実感。今度は通
 年コースに参加したい。

生活に薪炭
 を取り入れ
 ていた。彼
 らのように
 になりたいと
 感じた。有
 機農業をし
 ながら堆
 肥、薪炭、
 その他農業
 資材の入手
 先として森
 8 / 7 ~ 8 / 10 就農前に
 一年間の有機農業研修を

受けようと思いい、研修地
 候補としてまず有機農業
 のメツカ、埼玉県小川町
 の田下農場で短期農体験。
 8 / 13 ~ 8 / 22 有機農業
 の夏期講習。愛農大学講
 座』を三重県青山町にて
 受講。
 8 / 23 ~ 8 / 27 研修地候
 補、広島県の坂本農場訪
 問。
 8 / 28 ~ 29 有機農業研究
 会主催の『足柄農の会』見
 学。有機農業で生きてい
 く上での共同体の重要性
 を感じた。
 9 / 5、9 / 11、9 / 17 研
 修地候補、千葉県成田市
 の『小泉循環農場』訪問。
 研修地はここにした。
 9 / 14 ~ 15 原島さんの林
 業教室。ナタの刃砥ぎ、皮
 むきペラ製作、葉枯らし
 間伐、皮むき等。
 10 / 1 ~ 小泉循環農場に
 て一年間の研修が始まり
 ました。一年後に就農(で
 きるといいな)の予定で
 す。目標の一つとしては
 薪炭を生活に取り入れ入れ化
 石燃料はなるべく使わな
 いこと。堆肥原料は山か
 ら。そのためにも山の技
 術を身につけたい。機会
 を作って今度は必ず通年
 コースを受講しに行きた
 いです。

を借りて付近の農地等を
 探索。
 8 / 7 ~ 8 / 10 就農前に
 一年間の有機農業研修を



昔描いた夢
 サハラ砂漠を大森林地帯
 にしたい。そんな大それた
 夢を持ち始めたのは中学の
 頃。最初はただ、「ロマンを感
 じる」のが動機のようなも
 のでしたが、
 それが高校の時に「再生
 可能な資源である森林を最
 大限有効に使う事が、鉱物
 資源の枯渇やゴミ問題の特
 効薬だ。それなら人間の住
 んでないサハラ砂漠を大々
 的に緑化して、その林産物
 を全世界で共有すればいい
 んだ。」と考えるようになり、
 そのための植林の技術や生
 態学を学ぶつもりで林学科
 に進みました。

技術と科学の狭間
 大学で、砂漠地帯の0か
 らの緑化はかえって他の地
 域の気候に悪影響を及ぼす
 かもしれないことを知った

のがきっかけで、「人間が頭
 で考えて環境問題を技術で
 解決しようとする、かえつ
 て想定してなかった別の大
 きな問題が生じる」という戒
 めを感じるようになりまし
 た。月刊科学雑誌『Scientia』を
 愛読していた科学少年とし
 ては、バラ色の二十一世紀に
 暗い雲がさしてきた感じで
 す。逆に、昔の人が経験則と
 して知っていたことが、現在
 の科学により自然界の法則
 にとつたものとして明
 らかにされていくケースを
 多々聞くにつれ、自然の力を
 最大限に生かすところに人
 類が生きて延びていける光を
 見出すようになりました。そ
 して、そのような知識の積み
 上げに自分も貢献したいと
 思うようになり、研究者を志
 した事もありました。

転機
 木陰がとても貴重な暑い
 サヘル地域や氷点下二十度
 にもなるカナダの針葉樹林
 での観測をするうちに、社会
 に貢献できるような研究成
 果には、一生を掛けても辿り
 着けないかもしれないとい
 う限界を感じるようになり
 ました。そんな去年の暮れ、
 偶然の出会いから特定非営
 利活動法人(いわゆるNPO
 法人)「森づくりフォーラム」
 の常勤職員募集の報を知っ
 たのです。この会が目標とし

て掲げている「森とともに暮らす社会の実現」という言葉を目にして僕は、「ここでやっけて行くんだ」と確信したのでした。書類を出しただけで、まだ二次審査の面接まで漕ぎ着けるかどうか不明で、まだない段階でさえ。何しろ、何年間も頭の片隅に追いやられていた高校の頃の自分の考え(「森林を有効利用したい」)が呼び覚まされたのですから。

森づくりフォーラム

幸い、確信は現実となりこの四月から毎日御茶ノ水のオフィスへ出勤しています。当会は、山仕事に関する森林ボランティア団体のひとつです。そのような団体は全国で千を越えますが、当会の特徴として、他の森林NPOの支援をしていることが挙げられます。

一つの任意団体ではな

な手が出せないことを、各地の団体や全国に散らばっている理事さんなどの力も借りて進めて行くのです。詳細はホームページ(<http://www.noridokuri.jp/>)などに譲りますが、今準備を進めている「技術習得制度」では、鳥崎先生にも発起人になって頂いています。

森とともに暮らす社会って？

ただ、今の仕事は森林ボランティア活動を活発にすることに寄与できても、「森とともに暮らす」新たな社会の姿(システムや制度など)へと導く具体像を、明瞭には示せてはいません。でも、もう一方で必要な、目に見えない部分。つまり人々の価値観や世界観がどのように変化しているのかは、僕の中に一つのイメージがあります。それは、人類がもう一度、自然

から学ぶ姿勢を取り戻しているだろうということです。

森から学ぶ個性の尊重

地球上には様々な気候風



土がある中で、そのほとんどの場所にはそれぞれ固有の生態系が成立している。そのように多種多様な生態系が存在し得るのは、生態系の構成種の違いもあれど、同じ種を担っているという面もある。

このような生態系とは、構成員の独自の役割(個性)が活かされることで、系全体が上手く回っている状態にあると言えるでしょう。ところが、その系の中に居る夫々の種は、系における自分の役割を自覚して生きていく訳ではありません。それなのにまるで、「お互いの存在が相手を生かし、ひるがえって自分を生かしていること」によって循環が成り立っている」と解かっているかのように、自分の領分をわきまえ、循環のバランスを崩すことなく生きています。

こういう点に我々人間は学ぶべきではないでしょうか？ すなわち、人間社会の中で自分の役割が見出せていない人だつて、全体の中で何かしら活かされている筈なのだから、系全体の関係性の全てを見通すことはできない人類には他人を否定する権利はないことを、また、自分の個性を發揮できる人を妨害するのは「全体」にとって、そして巡り巡って自

分にとつてマイナスになるだろうことを。

自然の叡智が活かされた社会へ

一人一人がこのように考えることが出来れば、人間界も自然界と同じように、いろんな価値観や個性を許容できるような懐の深さを持つて、皆が幸せに生きられるのではないのでしょうか？

「横並び」意識を脱却し、個人は人の評価に惑わされず、情報の波や流行に流されず、自分自身で判断しながら生きられるようになる。そんな気がしています。その結果として、何でもお役所に責任を転嫁してしまうことも、企業が東京に一極集中することも、必要な消費をすることも無くなるのではないのでしょうか？

だから、森に関わり、自然の叡智を感じて貰える人が一人ずつでも増え続けることが、「森とともに暮らす社会」に向けての着実な一歩だと思つて、日々の仕事をしていきます。

「自然の叡智」と言えば、愛知県で来年開催される万博ですね。結局、相も変わらぬ「ちよつと先行く技術の博覧会」になりそうな様相を呈しているのが残念です。森づくりフォーラムとしては、森

との関わりが薄い一般の人にも「森に行つて見よう」と思つて貰えるような企画を目標して、出展の準備を進めています。ご支援ご期待の程よろしく願ひします。

一塾生として

なんだか大上段に構えた事を書いてしまいましたが、こんなことを書けるのも、塾のみんなに安心しているからです。いろんな職業の人が、自分なりに森との関わり方を考えていることを知り、中には「森とともに暮らす社会」を自給自足という形で実践しようという人も居て(僕には、まだそこへ踏み出す勇氣がありませんが)、同志を得た思いでいます。この出会いを与えてくれたKOA森林塾に感謝します。

「コラム」

十月も半ばになり、ここ伊那谷でも紅葉の時期になってきました。木々も色付き始めてきましたが、今年八月位からカラマツには異変が起きていました。気付いた方もおられると思いますが、遠景にみるとカラマツの箇所だけ茶色く染まって見えるのです。紅葉には早いので何事かと不思議に思つていたところ、保科先生によるとカラマツアカハバチの食害による影響ではないかとの事。

すぐに木を枯らしてしまつほどの力はないようで安心。梅雨にほとんど雨が降らなかつた影響でしょうか。こういうように、一面のカラマツ林が食害にあつているのを見ると、一斉造林された単相林のもろさが気になります。

「おわりに」

本当に今年度は台風の当たり年で十月の九日に近くを通つたはずなのにまた昨晩(二十日)も長野県を通つていきました。山に食べ物がなくなつていよいよ熊たちも里に下りずにいられないのでしょうか。



同僚の見つけたマツタケ、写真だけくれました

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL <http://www.koanet.co.jp>